

各大学アンケート及びヒアリングの結果を踏まえた分析について

1 学生が学ぶ環境の充実

- 「大変重要」「やや重要」の割合が全事業において6割を超えており（「障害のある学生支援」「FD」「SD」「ブラック企業・ブラックバイト」は8割超）、高く評価されている。特に「大変重要」の割合が高い事業が多い。
- 大学による回答の差があまりないことから、多くの大学が関与し、各事業の認知度も高いと考えられる。

2 大学・学生の国際化の促進

- 「大変重要」「やや重要」の割合が5割前後の事業が多い。
- 個別事業に関しては、各大学による回答の差が見られるが、「総合的な留学生支援の推進」については多くの大学に評価されていることから、留学生施策の重要性は各大学において認識されているものの、事業への関与については大学ごとに差が生じていることが伺える。

3 学生の進路・社会進出の支援

- インターンシップ、京都企業とのマッチングについては、「大変重要」「やや重要」の割合が8割前後であり、高く評価されている。
- 京都企業と連携した人財育成については、「大変重要」「やや重要」が6割弱となっている一方、「事業を知らない」の割合が高いことから、事業周知が課題である。

4 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

- 多くの事業について、「大変重要」「やや重要」の割合が6割強となっている。
- 全体として「事業を知らない」という回答は少なく、各事業の認知度は一定の水準にあるが、事業への関与については大学ごとに差が生じていることが伺える。

5 学生が持つエネルギーをいかした京都力の強化

- 学生交流事業については、全体として一定の評価を受けており、インターカレッジな学生活動に対する期待が伺える。
- 一方、輝く学生応援プロジェクトについては、「事業を知らない」と回答した大学も多いため、事業周知が課題である。

6 プロモーション戦略の強化

- 「大変重要」「やや重要」の割合が4割であり、他の事業と比較して評価が低い。
- 全体として「どちらともいえない」の割合が高く、自由記述においては「共同広報事業が個別の大学への関心につながっているかどうか分からない」といった回答がいくつか寄せられている。

＜アンケート結果を踏まえた今後の検討の視点＞

- ・ 各大学へのヒアリングの結果も踏まえると、各大学から高く評価されている事業が多くある一方、大学により回答に差がある事業もあり、各大学の置かれた状況（立地、学部数等）が背景にあると考えられる。また、分野によっては、事業内容の評価を行う前の段階で、「自大学には関わりがない」という観点から回答されているケースも考えられる。
- ・ 結果を踏まえ、ニーズが高い事業をさらに充実させていくことも重要だが、一方で、特に大学ごとの評価の差が大きい事業については、「評価の低い大学のニーズを掘り起こす」観点からの検討も必要である。